

公安委員会定例会議(第3回)の開催状況

第1 日 時 令和7年2月5日(水)
午後2時08分 ～ 午後4時10分

第2 出席者 佐伯委員長、五葉委員、小野委員
本部長、総務室長、警務部長、首席監察官、生活安全部長
刑事部長、交通部長、警備部長、警察学校長、情報通信部長
総務課長

第3 議事の概要

1 佐伯委員長説示

本日は、ドストエフスキーの長編小説『カラマーゾフの兄弟』の一説についてお話しします。

この小説は、カラマーゾフ家の父親フョードルの殺人事件をめぐって話が展開していく一大ミステリーで、ドストエフスキーの生涯の総決算といわれる作品です。世界中に多くのファンがいる素晴らしい作品で、この小説に魅せられた哲学者ウィトゲンシュタインは、何十回となくこの本を手にし、全文を誦んじるほど細部を読み込んだとされています。

私が惹かれたのは、最終章 12 編「誤審」の場面です。フョードルを殺害したとして、息子のドミートリーが裁判にかけられ、検察側の尋問で有罪かと思われるのですが、凄腕弁護士フェチュコービッチが、検察側の証人を巧妙に、そして道徳的に貶め、証拠を次々と覆していきます。フェチュコービッチは、「事件に対する最も悪意ある偏見より、はるかに悪質で、はるかに致命的なことがあります。例えば私たちが、なんらかの芸術的な遊び、つまり長編小説みたいな、何か芸術作品を創造したいという欲求に憑りつかれる時です。神から心理分析の才能を豊かに授かっている場合などは、特にありがちなことです」などと主張し、物事は見方を変えると全く別の解釈ができることを見事に表現しました。

つまり、フェチュコービッチは、「人間が何か芸術作品を創造したい、物語を作りたいという欲求に憑りつかれてしまうと、それに沿うような様々な要素を取り込み、自分が作りたいストーリーを作ってしまう」という危険性を述べたのではないかと思います。

自分がこうだと思ったら、それに沿うような出来事やエピソードを集めてしまい、あれはこうだろうと思い込んでしまうことがよくあります。特にSNSでは、「エコーチェンバー」という、自分の興味のある、自分と似た意見ばかり集めてストーリーを作ることが散見されますが、ドストエフスキーはこれらの現象を上手に描いており、人間が陥りがちな危険性を鋭く指摘しています。

いろいろな意見や考え方を取り入れることは重要ですが、多種多様な情報に惑わされることなく、やはり自分の頭で考えることが何よりも大切だと思いますので、今後の執務の参考としてください。

2 決裁事項

(1) 公安委員会定例会議の会議録

総務室から、令和7年第2回公安委員会定例会議の会議録について伺いがあり了承した。

(2) 公安委員会宛て苦情の受理

総務室から、公安委員会宛て苦情の受理について伺いがあり了承した。

3 報告事項

(1) 令和6年中の情報公開・個人情報開示の請求状況

総務室長から、令和6年中の情報公開・個人情報開示の請求状況について報告があった。

委員から、「情報公開及び個人情報開示の請求は、どちらも重要な県民の権利であることから、引き続き適切に対応していただきたい」との発言があった。

委員から、「情報公開請求は誰でも行うことができる一方、個人情報開示請求は警察に相談した本人などに限られている。それぞれ法律等に基づき、適正な業務の推進をお願いしたい」との発言があった。

(2) 令和6年中における犯罪被害者等支援の取組状況

総務室長から、令和6年中における犯罪被害者等支援の取組状況について報告があった。

委員から、「犯罪被害者等の支援には一時避難場所借上費用等の各種公費負担制度があるので、被害者等の精神的・経済的負担が少しでも軽減できるよう、積極的に運用していただきたい」との発言があった。

委員から、「犯罪被害者等への経済的支援として、犯罪被害者給付制度や各種公費負担制度等多くのものがあるので、犯罪被害者等の要望を確実に把握するなどして、効果的な運用に努めていただきたい」との発言があった。

委員から、「警察においてきめ細かな被害者支援がなされている。今後も被害者に寄り添って少しでも痛みが和らぐような支援をお願いしたい。市町においても犯罪被害者支援に特化した条例が1日でも早く制定されることを願っている。また、セラピー犬による支援活動は全国で愛媛だけの取組と聞き感銘を受けた。私も警察署で実際にセラピー犬を触りとても癒された経験があり、広報活動を通じてこうした取組を広げてもらいたい」との発言があった。

(3) 令和7年度当初予算の概要

警務部長から、令和7年度当初予算の概要について報告があった。

委員から、「予算の内容は多岐にわたるが、それぞれ適正に執行し、県民の安全安心の確保に努めていただきたい」との発言があった。

委員から、「老朽化していた新居浜警察署が建て替えられることは非常に喜ばしいが、このほかにも古い庁舎が多くある。企業においても機能的で利便性が高い職場で仕事をすることがモチベーションを高めることになる。限られた予算の中で、警察活動を強力に推進しなければならないが、今後も庁舎の建て替えを含め必要な予算をしっかりと獲得していただきたい」との発言があった。

委員から、「予算の獲得は本当に大変であるが、必要な予算を獲得し、適正に執行していただきたい。これまでに複数の警察署を視察したが、老朽化が進んでいる庁舎が散見される。特に警察署は地域の安全安心の要であるため、設備等を更に充実させてもらいたい」との発言があった。

(4) メンタルヘルス・マネジメント®検定試験（Ⅱ種）の実施結果

警務部長から、メンタルヘルス・マネジメント®検定試験（Ⅱ種）の実施結果について報告があった。

委員から、「メンタルヘルス対策は警察職員が最大限の力を発揮するために重要であることから、超過勤務の縮減等も含めて総合的な対策を推進していただきたい」との発言があった。

委員から、「メンタルヘルスの問題が社会問題化する中、警察では『メンタルヘルス対策に興味を持つ』『受験する』『合格する』という三段階がメンタルヘルスへの関心を高めている。こうした取組みはぜひ今後も継続していただきたい」との発言があった。

委員から、「教育現場においてもメンタルヘルス・マネジメントは最大の問題の一つであった。学ぼうという気持ちが一番大事であり、警察において多くの警察職員が受験したことは大変すばらしい。受験者の中には、休職中の部下がいるため必要な資格であると感じた管理職がいると聞き、その意識の高さに感銘を受けた。今後も受験者数が増加することはもとより、管理職全員が受験することが理想だと思う」との発言があった。

(5) 令和6年中におけるサイバー犯罪の現状と今後の対策

生活安全部長から、令和6年中におけるサイバー犯罪の現状と今後の対策について報告があった。

委員から、「サイバー犯罪には様々な手口がある。特に不正アクセス禁止法違反は背後に組織があり、誰がアクセスしたか分からない通信手段を使って犯罪を行っている。警察は、通常の捜査では犯人を検挙することが非常に困難な中で、でき得る限りの捜査を推進し総力戦で対応しており、その労苦に感謝したい」との発言があった。

委員から、「県民の中には、クレジットカードの番号等を他人が知れば、そのカードの限度額まで購入できるという基本的なことも知らない方が多くいる。警察には、サイバー犯罪対策を推進する中で、こうしたサイバー犯罪の実態や犯罪に遭わないための対応策を広く広報していただきたい」との発言があった。

委員から、「警察が様々な捜査手法によりサイバー犯罪を検挙していることに感謝する。警察には、特に高齢者を始めとするインターネット弱者に寄り添いながら、各種対策を強力に推進していただきたい」との発言があった。

(6) 「前見て！運転プロジェクト」の実施

交通部長から、「前見て！運転プロジェクト」の実施について報告があった。

委員から、「運転者の脇見・漫然運転を防止することが重大事故の予防につながる。様々な広報媒体を通じて『前方注視の徹底』を広く呼びかけていただきたい」との発言があった。

委員から、「私は複数の会議で『自損事故など運転者が前方を注視していれば防げた可能性のある事故で亡くなる方が6割以上もいる』ことを踏まえて交通事故防止の講話をしたことがあるが、出席者は皆驚いていた。今回のプロジェクトは、ネーミングも良く、広報、取締り、道路環境整備という取組内容にも効果を期待している」との発言があった。

委員から、「最近、横断歩道の前で待っていると、多くの車両が一時停止してくれる。歩行者からすると『横断歩道を渡ろうと立っていれば、車両はほぼ停まってくれる』というのが実感である。重点4類型事故はドライバーの意識次第で防げる。『前を見る』というのは当たり前のことであるが、その当たり前が県民の心に浸透するようにプロジェクトを進めてもらいたい」との発言があった。

(7) 令和6年下半期中の機動隊活動状況

警備部長から、令和6年下半期中の機動隊活動状況について報告があった。

委員から、「機動隊の各専門部隊は日々、厳しい訓練を実施し、救出救助活動等に臨んでいることが分かった。隊員が事故なく任務を完遂できるように今後も県民のために計画的に訓練を実施していただきたい」との発言があった。

委員から、「機動隊員は活動が多岐にわたり、訓練は非常に大変で困難な印象を受けた。特に救命業務などは、普段は消防署員がしていると思っていた。また、石鎚山には、電波の届かない場所があると聞いたことがあるが、最近の一部のスマートフォンで、人工衛星とコンタクトができるという話を聞いた。そうしたことを石鎚山の入山口で掲示できれば、迅速な救助につながると思う」との発言があった。

委員から、「機動隊に勤務する大栗警部補の表彰式で本人と話をしたことがある。大栗警部補が経験した潜水30メートルは全くの無音で真っ暗ということで、凄みや恐ろしさを感じるとともに、その使命感に感銘を受けた。凶悪犯罪や爆破テロを含め県民の日常生活には多くの危険が潜んでいる。今後も各種活動を通じて多くの人命を救っていただきたい」との発言があった。

(8) 監察案件に関する報告

警務部から、監察案件に関して報告があった。

4 その他

本部長から、「自分の考えに合うものばかり取り入れ、違うものに目をつぶって耳をふさぐという傾向は誰でもあると思う。私も今まで上司に異論や反論を述べたことがあるが、愉快的顔をしていた人はいなかった。私自身、異論、反論を歓迎すると言いつつも、やはり時に少し心穏やかならざることがある。そこは自戒しなければならないと思う」との発言があった。

以 上